

## 紫陽花の想い

### 姉の召天

6月14日、長い苦難の生涯が終わりました。90歳でした。

長女を2歳の時に、はしかの発見に遅れて失い、長男は22歳の時、弁護士を目指して大学院に入学した春に、友人が運転する車の助手席に乗り、旅行中に正面衝突の事故で召天し、失意のどん底から喪失感は癒やされず、病におそわれ続けた苦闘の人生でした。

私たち兄弟3人は多忙な母に代わって姉に育てられ、多くの人がもつ母親との関係を姉が背負ってくれました。最後には「ありがとう」と言って召天しました。私も「有難う。感謝している」と伝えました。弟夫婦が長期間、大変良く面倒を看てくれました。私は何もすることが出来ませんでした。

「わたしの幸せあなたの幸せ」の中に姉との葛藤を記しています。良い面もそうでない面も養育的影響を受けました。「人に迷惑をかけてはいけない」

「整理整頓と段取りの大切さ」「嘘をいってはならない」「もっと努力しなさい」と厳しく教えられました。

それに反抗するように「人に迷惑をいっぱいかけ」「整理整頓が苦手で、物忘れの習性」をつけてしまい、それから脱出するために人の5倍以上の努力をしなければならなかった自分の人生の鏡を見て、姉と会うことが、申し訳なさりと怖さの入り交じった複雑な気持ちで、十分な見舞いも看病もできなかったことを詫びています。

4年前の義兄の召天から、全てを私



我が家に至る紫陽花の道

に代わって面倒を看てくれた弟夫妻に、詫び、感謝しています。多くを記すことができませんが、常に私に代わって重荷を背負ってくれる誰かの存在に気づき、罪悪感と感謝と恵みが混交として単純に感謝とは言えない気持ちを告白せねばなりません。

「わたしの幸せあなたの幸せ」の改訂版の出版は、私の力不足で遅れに遅れてしまったのですが、あるとき「この本は姉が生存している間は完成しないのではないか」と感じ編集協力者の方々に吐露したことがあります。しかし、姉は出版を待っていてくれたのかも知れません。5月1日から危篤状態になり、何度も危機を乗り越えて待っていていました

## 死とは

6月14日、私は例月の仕事で博多にいました。姉の訃報の前日に親しい友人のご主人の急逝知らせを受けて、供花や通夜、葬儀の出席の段取りをしていました。姉の危篤は続いていましたが、まさか重なるとは考えたくありませんでした。重なりはしましたが双方に出席ができる時間が与えられたのです。私の人生脚本の瞬間だと感じました。

姉の葬儀は16日午前11時から、友人の通夜は夕方からで、移動時間も確保され、盛大な通夜式に参列し、翌朝も葬儀式に間に合いました。弟には何も知らせていませんでしたが私のスケジュールに合わせるかのように、時間が決められました。不思議なことです。そして23日が長男の義父の50日祭に体力が保たれ琵琶湖湖畔の式場に間に合いました。

今年は、恩師滝沢陽一先生を始め親しい方を4人見送ることになりました。移動が長いために悲しみを深く味わう時間がなく、唯々人生の終わりを繰り返し経験することで、もっと真剣に自分の死を見つめなければならないと思いました。日頃から準備をしていますが、気持ちは準備について行かないものです。死は単純ではありません。



## 私とは

6月の最後の日、暦をめくるにあたり、振り返って、ホテル暮らしが飛び飛びですが、13日あり、富山ー東京ー福岡ー松山ー伊丹ー羽田を移動しました。現役並の活躍のようですが、体力はへとへとです。よくできたものだと言います。物忘れが多い習性ですが、そのことが精神的な疲労を蓄積しない長所となっているかも知れません。

もっともこれらが全て悲しみではなく、移動の隙間を狙った美術館の訪問が3回、妻とのミステリツアと称する旅行が3日、コンサートが2日あります。加えて生誕250年を来年に控えたベートーヴェン講座にも参加して、病院にも通い健康の維持にも留意しています。移動中に原稿が書けなくなったことが、加齢のメルクマールです。

若い経営者との対話を円滑にするために、書店の平積みの本も読みます。「直感と論理をつなぐ思考法」の類の本がよく売れているようです。トップ経営者が「心」を語っています。1年かけて書き上げた「わたしの幸せあなたの幸せ」を読み直して、時代に遅れてはいないことも確認できました。若いと言えば、こんな問いが再び発せられます。

その問いは「わたしは何者か」です。この問いは「わたしの幸せあなたの幸せ」の前書き、後書き、そして著者紹介を書くときに難儀をした課題でした。自分とはなにか？卑屈にも傲慢にもならず、神の前にすべてをさらけ出す、まことに矛盾に満ちた自我を。神の前には自画像も他画像もない。私とは何者ですか？

売れない本でも出版責任は果たさねばなりません。平凡な人間を、どのような言葉で表してよいか？ひとまず市井人となりました。この本の使命は何かをどう表現していいか分からないままに船出してしまいました。来月号から「わたしの幸せあなたの幸せ」裏話を書いて本音をさらけ出してみたいと思います。



アンネのバラ咲く庭



我が家に至る道に咲く紫陽花